

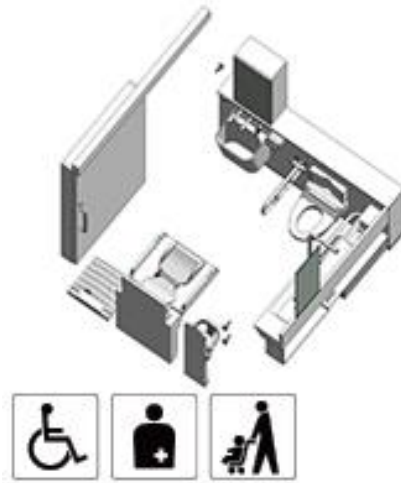
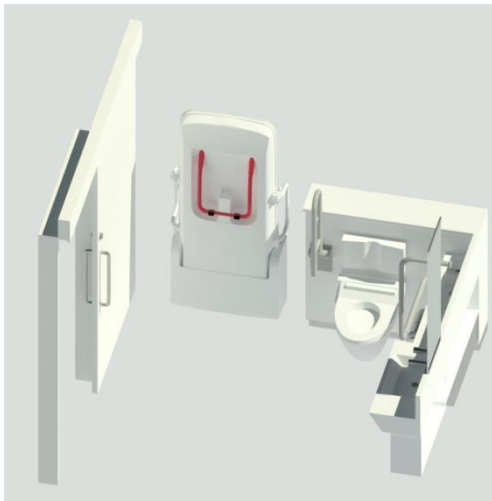
報道関係各位

2022年11月8日
株式会社 LIXIL

LIXIL とコマニー社で共同開発した「パブリックトイレ空間 BIM モデル」に建築設計標準の改訂に対応した新規プランを追加

株式会社 LIXIL（以下 LIXIL）は、パーテンションメーカーのコマニー株式会社（以下コマニー社）と共同開発した、トイレ空間の構成要素である便器およびその周辺アクセサリーとトイレブースを合体させた BIM データである「パブリックトイレ空間 BIM モデル」に、国土交通省が令和 3 年に改正した建築設計標準に対応した新規プランを追加します。

URL : https://www.biz-lixil.com/prod_data/bim_rev/



▲車いすトイレφ1800 介助ベッド_Lのレンダリング ▲車いすトイレφ1500 オストメイト・乳幼児_L

現在、建築における設計や施工の領域では BIM の普及が進み、業務効率化の観点から大きな注目を集め、BIM を活用した設計件数も増えています。そうした中、2020 年 11 月にコマニー社と共同開発した「パブリックトイレ空間 BIM モデル」は、LIXIL のトイレ器具とコマニー社のトイレブースを BIM データで融合することで、より効率的な作図が可能となるものです。データ利用者が、各々のデータを取り入れる手間が省けるだけでなく、トイレ器具とトイレブースをひとつのデータで、寸法調整することで、動作空間の確保や検証、各々の干渉確認ができます。この 2 年間で、コマニー社の HP と合わせて計 160 社以上にダウンロードされています。

今回、バージョンアップしたプランは、令和 3 年に国土交通省が改正した「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」に合わせて、1 タイプ 2 種類（L、R 合わせて）だった車いすトイレを 6 タイプ 12 種類に拡充しました。これにより、従来 5 タイプ 10 種類だった空間データは、バリアフリートイレの機能の組み合わせを充実させ、10 タイプ 20 種類となりました。

具体的には、トイレブースで構成されていた車いすトイレ空間を建築壁に変更し、コマニー社製のハンギングドア（引き戸）と LIXIL のトイレ器具をセットしました。また、建築設計標準に準ずるよう、車いす回転スペースや標準内法寸法 2,000mm 角を確保した空間設定となっています。床面積 2,000㎡以上の特別特定建築物で要求される、車いす回転スペースφ1,800 と介助用ベッド（ユニバーサルベッド）を設置したデータを 2

タイプ、車いす回転スペースφ1,500 の車いす使用者トイレと車いす使用者トイレにオストメイト対応設備、乳幼児連れ用設備を組み合わせたデータを4タイプご用意しました。建築物用途の特性や利用者の特性に合わせてトイレ空間設計できるようになっています。

LIXIL は、設計者を第一に考えた「設計者ファースト[®]」の観点から提供を進める「パブリックトイレ空間 BIM モデル」を通じて、設計者のニーズや想いに寄り添いながら、誰もが豊かで快適なトイレ空間の実現をめざしていきます。